

同時発表 愛知県

令和7年3月27日
国土交通省 中部地方整備局

国道247号西知多道路調整会議の結果について

西知多道路の現在の進捗状況等について、関係機関で情報共有を図るため、国道247号西知多道路調整会議(第2回)を開催しましたので、その結果をお知らせします。

2025年3月27日に開催した「国道247号西知多道路調整会議(第2回)」の開催結果をお知らせします。

会議の概要は下記の通りです。

記

開催日時 : 2025年3月27日(木) 午前11時30分から12時まで
構成機関 : 国土交通省中部地方整備局・愛知国道事務所・名四国道事務所
愛知県建設局道路建設課・知多建設事務所
愛知県道路公社

議事概要・資料 : 別添のとおり

<配布先> 中部地方整備局記者クラブ

<問合せ先>

国土交通省 中部地方整備局 道路部 道路計画課

課長 しばた 柴田 やすはる 康晴

電話 : 052-953-8168

国道247号 西知多道路調整会議（第2回） 議事概要

1. 日 時

2025年3月27日（木）午前11時30分から12時まで

2. 出席者

国土交通省 中部地方整備局 道路部 道路計画課長

国土交通省 中部地方整備局 道路部 地域道路課長

国土交通省 中部地方整備局 愛知国道事務所長

国土交通省 中部地方整備局 名四国道事務所長

愛知県 建設局 道路建設課長

愛知県 建設局 有料道路室長

愛知県 知多建設事務所長

愛知県道路公社 事業部長

3. 議 事

現在の進捗状況、課題と対応等について

4. 議事概要

今回の調整会議において、西知多道路の各区間の進捗状況、課題と対応等について、国土交通省、愛知県及び愛知県道路公社で情報共有を行い、関係機関の相互協力のもと西知多道路の完成に向けて着実な進捗を図るため、以下について確認した。

○現在の進捗状況、課題と対応等について

◆事業中区間

<東海ジャンクション>

- ・工事推進中。（下部工（基礎）：H30に着手し、現在（R7.3末）までに約5割が完了）
- ・ケーソン基礎工事において、想定していなかった周面摩擦力の高い地質や軟弱地盤が確認されたため、高止まりや傾斜が発生
- ・これまでにケーソン基礎の高止まり事象に対して、周面摩擦低減のためのパーカッションドリルによる削孔などの追加工事を実施してきており、施工に時間を要している。また、工事箇所によって地質構成が様でなく施工期間が読めない。
- ・今後も同じ遅延リスクを抱えたケーソン基礎工事が残ることから、リスクに留意した工程管理が必要。
- ・引き続き、安全に十分配慮し、着実に工事を実施

<大田 I C>

- ・工事推進中。
- ・令和7年度から現道を切り回しながら工事を進めるため、安全に十分配慮し、着実に工事を実施する必要がある。

<長浦 I C～常滑 J C T>

- ・用地について、現在（R7.3末）までに約9割が取得完了。埋蔵文化財調査は試掘調査が概ね完了したが、一部未取得用地箇所での調査が残る状況。
- ・工事についても、取得済み箇所から順次着手しているが、未取得用地が点在しており、全面的な工事着手が出来ていないため、任意交渉に最大限の努力を続けつつ、土地収用法に基づく手続き（事業認定及び収用裁決）の準備を進める。
- ・なお、未取得用地について土地収用法に基づく裁決まで至った場合、用地取得完了までに数年程度必要となる。

◆調査中区間

<東海 J C T～長浦 I C>

- ・令和6年度より、道路管理者である県が主体となり、施工上の課題整理に向けた占有者ヒアリングを実施。
- ・ヒアリングにおいて、移設の可否や近接施工となる場合の離隔条件等を確認し、施工検討・解析の必要性を確認。

（上記議事概要における未開通区間の I C・J C T 名は全て仮称）

国道247号 西知多道路調整会議(第2回)

説明資料

令和7年3月27日

国土交通省 中部地方整備局
愛知県
愛知県道路公社

現在の進捗状況について

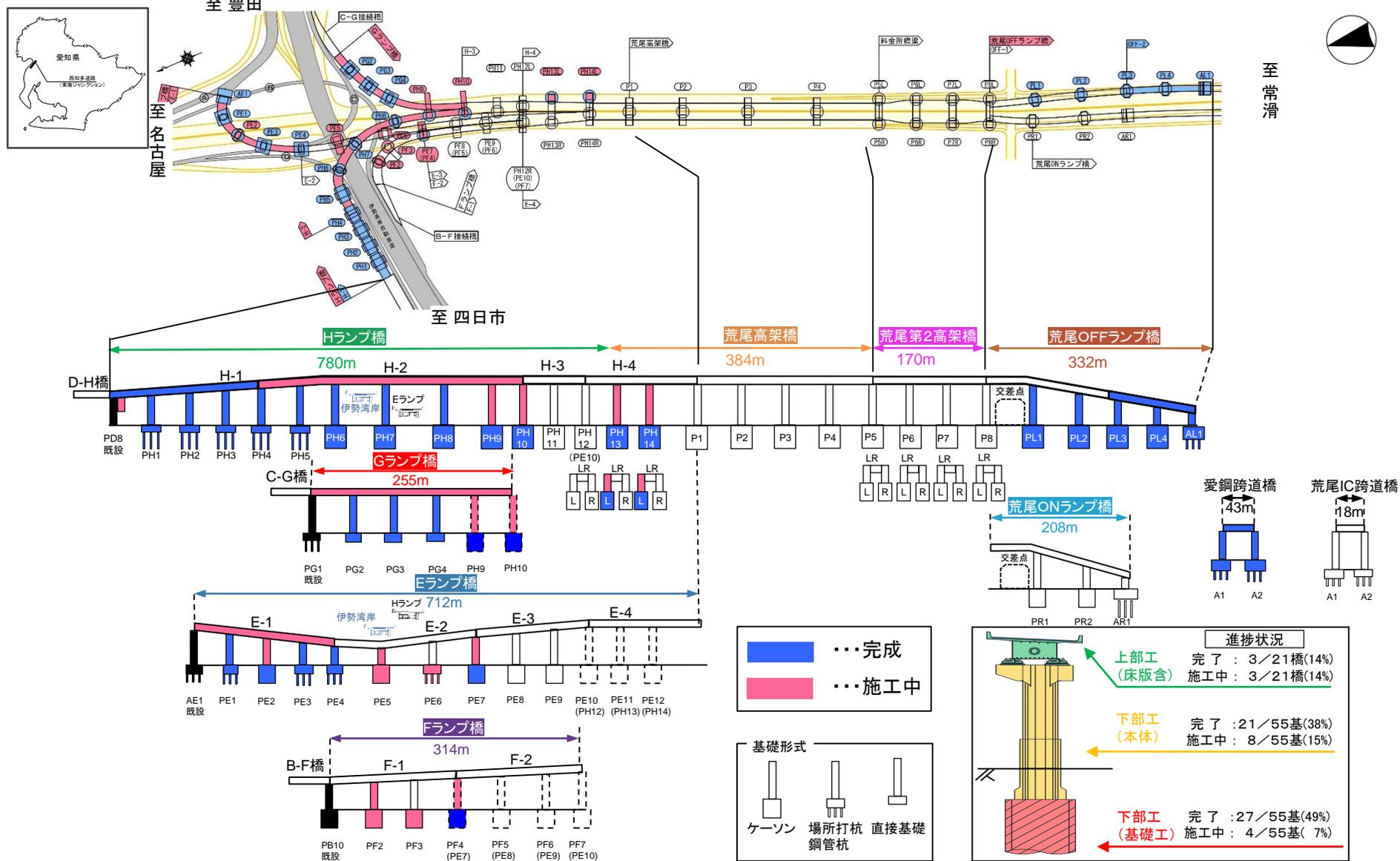
- 西知多道路は、「中部国際空港」と「伊勢湾岸自動車道」を連絡し、名古屋都市圏の自動車専用道路網と一体となることで、知多地域の交通円滑化、更には空港アクセスのダブルネットワーク化により、中部国際空港との連絡強化、安全で確実な物流の支援などに寄与する延長約18.5kmの高規格道路。
- 現在、東海ジャンクションは国で、長浦IC～常滑JCTについては、国、愛知県、愛知県道路公社で事業を推進しているところ。
- また、大田ICについては、愛知県と東海市にて事業推進しているところ。
- 上記以外(調査中区間)については、愛知県が主体となり調査を進めているところ。



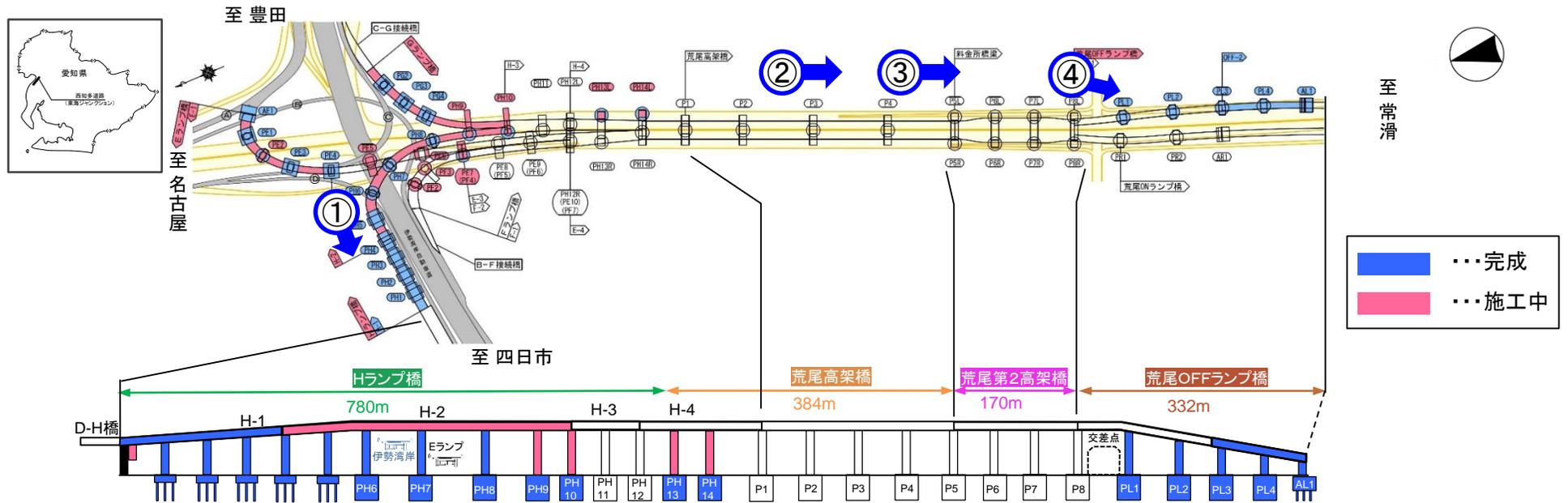
西知多道路 約18.5km ※大田IC及び長浦JCT～常滑JCT間のIC・JCT名は仮称

西知多道路(東海ジャンクション)事業の進捗状況

○ 現在、改良工・橋梁上部工・橋梁下部工など施工中。 ※R7年3月時点



西知多道路(東海ジャンクション)事業の進捗状況



① Hランプ橋(PH6→PH3方向)



② 荒尾IC北地区(起点→終点)



③ 荒尾IC北地区(起点→終点)



④ 荒尾OFFランプ(PL1→PL2方向)



西知多道路(東海ジャンクション)工事における課題と対応

■現在の進捗状況、橋梁下部工事におけるケーソン基礎の高止まり・傾斜について

- 下部工(基礎)について、H30に着手し、現在(R7.3末)までに27基/55基(約5割)が完了。(下部工本体は21基完了)
- ケーソン基礎工事において、**想定していなかった周面摩擦力の高い地質や軟弱地盤が確認されたため、高止まりや傾斜が発生。**

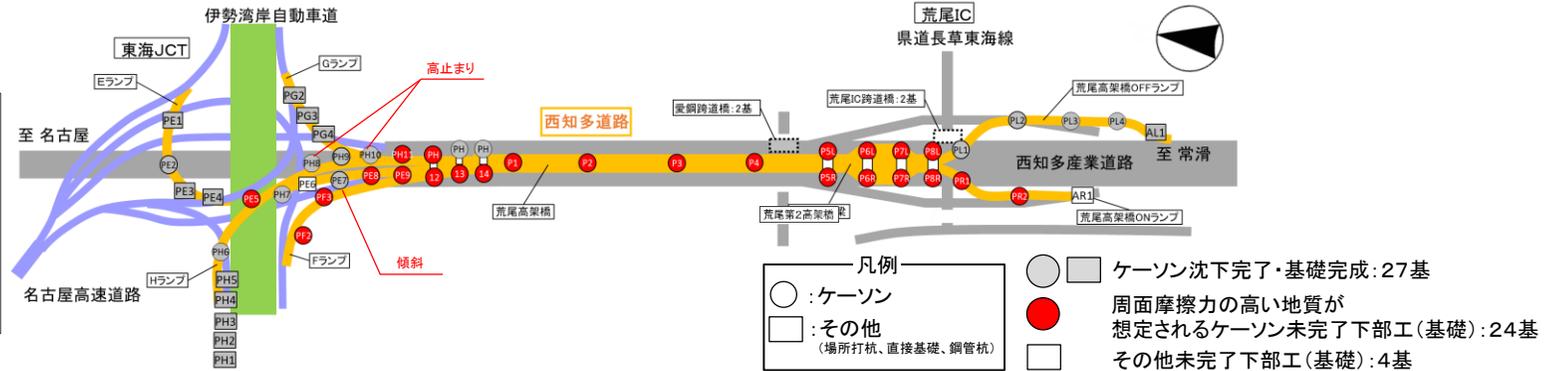
■位置図

下部工(基礎工)完了基数

前会議
(R6.5時点) 21基



今回
(R7.3時点) 27基

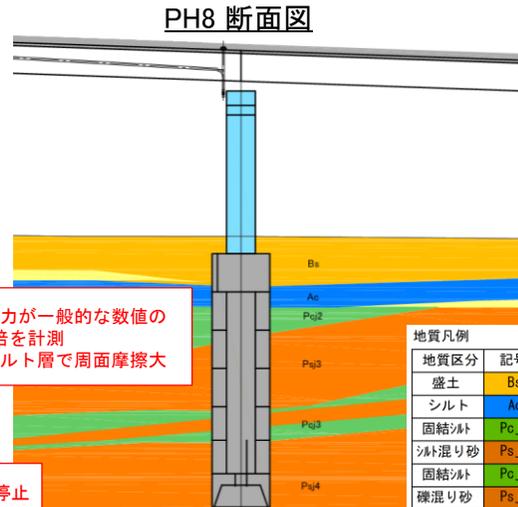
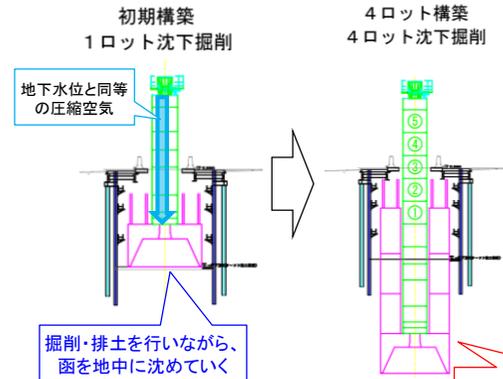


■ケーソン基礎の高止まりについて

【ケーソン基礎の施工方法】

コンクリートで作られた函(ケーソン)の下部に空気を送る事で、地下水の流入を防ぎ、ケーソンの下面を掘削しながら、ケーソンを地中に沈めて、基礎を構築する工法

【高止まり発生の原因】



施工中のケーソン基礎の傾斜(R5年9月28日発生)

地質区分	記号
盛土	Bs
シルト	Ac
固結シルト	Pq2
シルト混り砂	Pq3
固結シルト	Pq3
礫混り砂	Pq4

西知多道路(東海ジャンクション)工事における課題と対応

■橋梁下部工事におけるケーソン基礎の高止まりの対策状況について

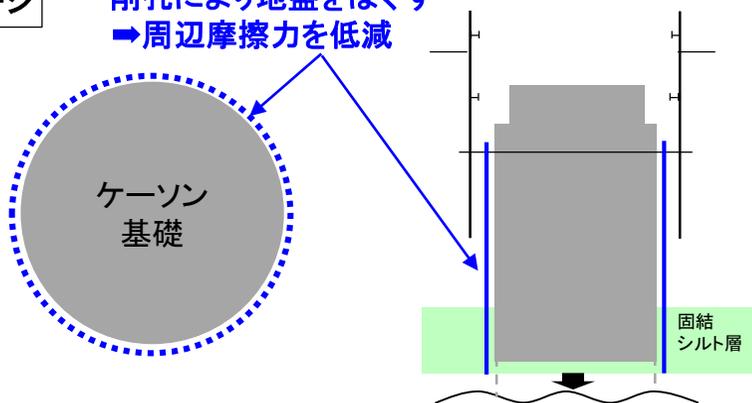
- これまでにケーソン基礎の高止まり事象に対して、周面摩擦低減のためのパーカッションドリルによる削孔などの沈下停止の対策工を実施してきており、施工に時間を要している。(工事箇所によって地質構成が一様でなく施工期間も読めない)
- また、今後も同じ遅延リスクを抱えたケーソン基礎工事が残るため、リスクに留意した工程管理が必要。
- 引き続き、安全に十分配慮し、着実に工事を実施。

■ケーソン基礎の高止まりの対策状況

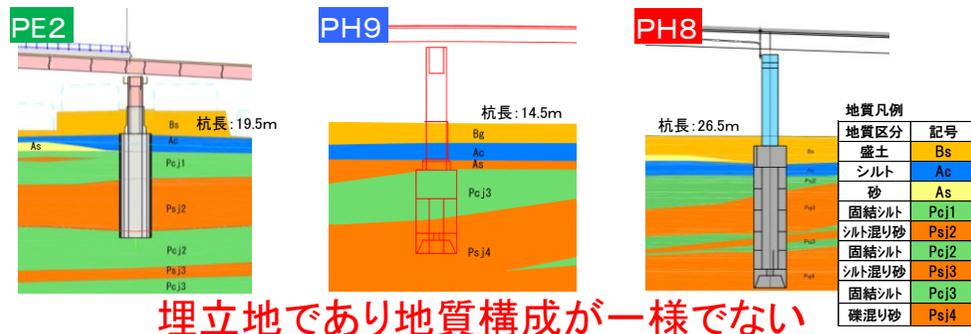


イメージ

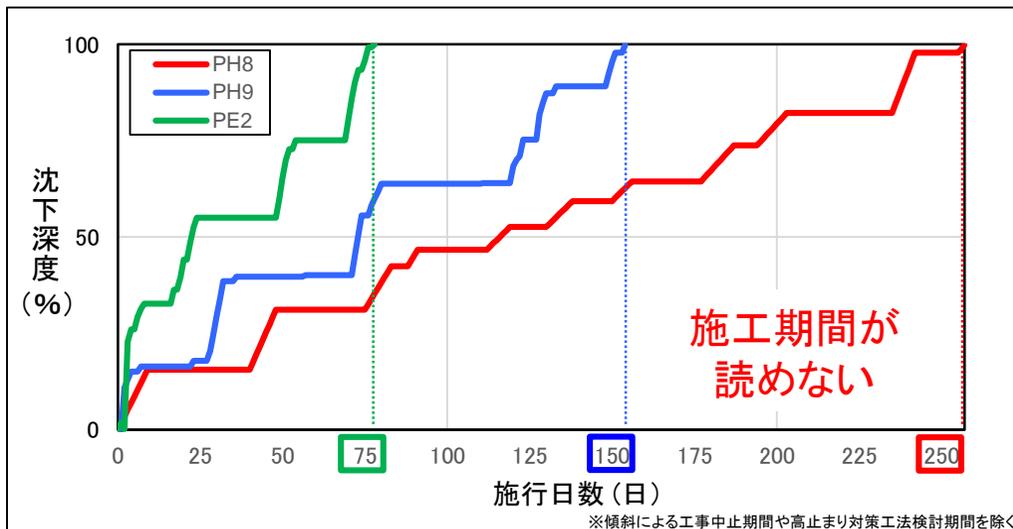
削孔により地盤をほぐす
→周辺摩擦力を低減



■地質状況

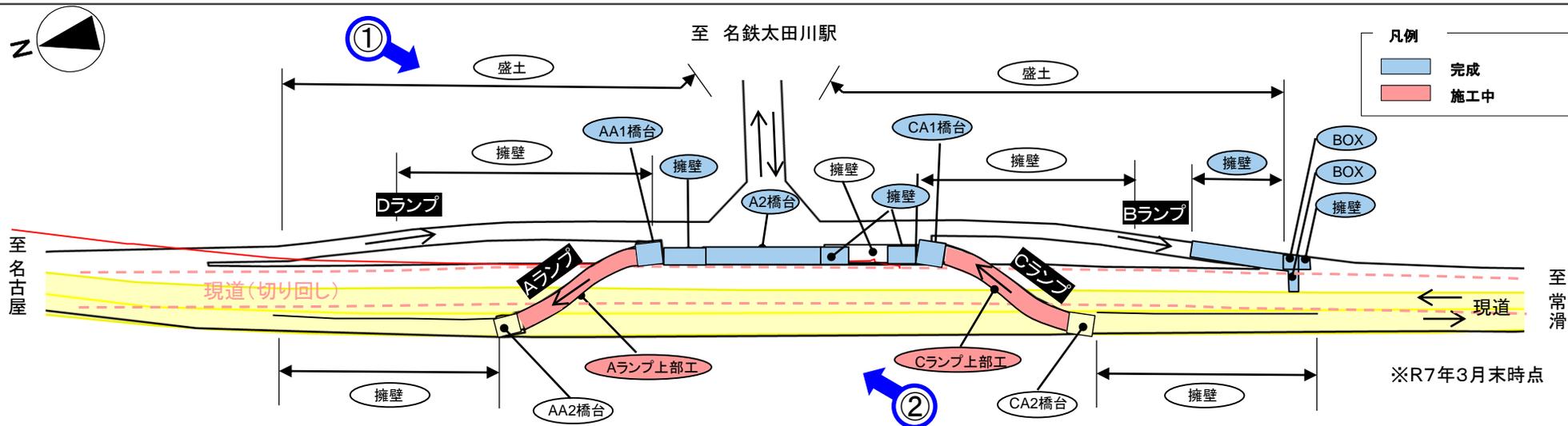


■ケーソン施工期間※



西知多道路(大田IC(仮称))事業の進捗状況

- 東側の橋梁下部工が完了し、現在は現道切り回しに向けた舗装工や橋梁上部工などを施工中。令和7年度から現道を切り回しながら工事実施。
- **引き続き、安全に十分配慮し、着実に工事を実施する必要がある。**



①着手前(R4.8時点)



①現在(R7.1時点)



②完成イメージ

西知多道路 大田インターチェンジ(仮称)



西知多道路(長浦IC~常滑JCT)事業の進捗状況

①長浦IC(名四国道事務所区間)



②金沢IC付近(愛知県区間)



③青海IC付近(愛知県区間)

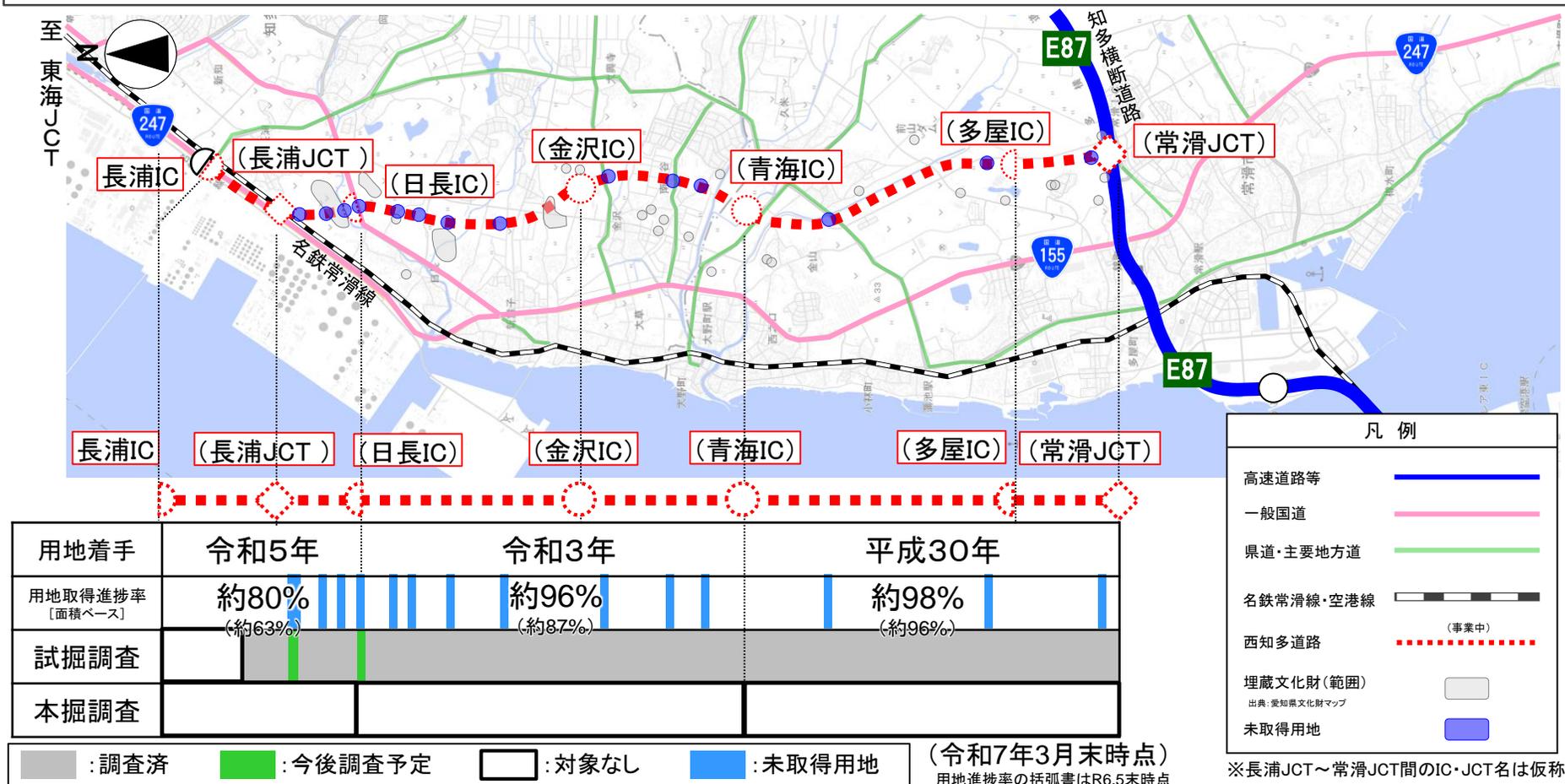


④多摩IC付近(愛知県区間)



西知多道路(長浦IC~常滑JCT)進捗の見込み

- 用地について、現在(R7.3末)までに約9割が取得完了。埋蔵文化財調査は試掘調査が概ね完了したが、一部未取得用地箇所での調査が残る状況。
- 工事についても、取得済み箇所から順次着手しているが、未取得用地が点在しており、全面的な工事着手が出来ていない。
- このため、任意交渉に最大限の努力を続けつつ、土地収用法に基づく手続き(事業認定及び収用裁決)の準備を進める。
- なお、未取得用地について土地収用法に基づく裁決まで至った場合、用地取得完了までに数年程度必要となる。
- 現時点で未取得の用地箇所は、取得後の早期の工事完成を目指し、工期短縮に努める。



西知多道路 調査中区間

○第1回調整会議(R6.6.27開催)において、国道247号の6車線化等に向けて、施工時の本線交通やIC利用交通の処理方法、既設インフラとの近接施工方法など、施工上配慮すべき課題の整理を道路管理者である県が主体となっていくことが確認されたため、**令和6年度より、県において課題整理のための調査に着手。**



西知多道路 調査中区間の進捗状況

- 既設インフラを考慮した施工を行う上で必要となる技術的な課題の整理に向け、占用物件や沿線施設への影響を確認するため、令和6年度より、県において各管理者へのヒアリングを実施。
- 移設の可否や近接施工となる場合の条件等を把握し、施工検討・解析の必要性を確認。

■既設インフラの設置状況、近接施工の課題整理

○既設インフラの現状、近接施工の条件整理について以下を確認【実施中】

- ・送電線、ガス管、用水管などの設置位置、供給先等。
- ・移設の可否。(移設方法、必要期間)
- ・埋設物や架空線などの離隔距離や防護方法。

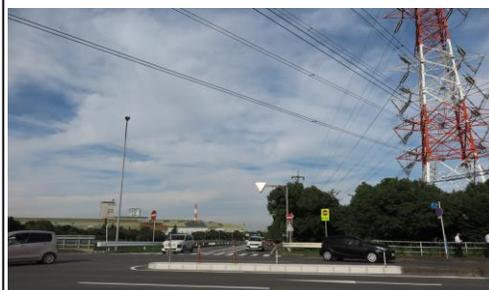
→ 施工検討・解析の必要性を確認中

▼ 現在

○施工検討・解析を進めるための地質調査を実施。

○地質調査結果を踏まえた近接施工検討・解析を実施し、埋立地特有の地盤における施工上の課題を整理。

■近接する既存インフラの例



中部電力の鉄塔



名古屋臨海鉄道の軌道敷

■現道上の既設インフラとの近接施工(イメージ)

